

森林環境学習等推進事業・こうち山の日推進事業・山の学習支援事業の統合について

R10.10.30
林業環境政策課

現状：森林環境学習等推進事業委託料は、こうち山の日制定趣旨に沿った森林保全ボランティア活動の支援や、山の学習支援事業費補助金に係る活用校の掘り起こし等を（公社）高知県森と緑の会に委託。

課題：委託事業のうち、森林保全ボランティア活動の支援やボランティア活動の広報等については、こうち山の日推進事業費補助金と目的・内容が類似。山の学習支援事業の広報等については、山の学習支援事業費補助金と関連する内容となっている。

対応：森林環境学習等推進事業委託料の事業内容を分割し、こうち山の日推進事業と山の学習支援事業にそれぞれ統合・整理することで、事務の効率化を図る。

統合前

森林環境学習等推進事業委託料	
委託先	高知県森と緑の会 
内容	森林保全ボランティアの活動の支援 
	森林保全ボランティア活動の広報、ボランティア団体のネットワーク強化 
	山の学習支援事業活用校掘り起こし（学校等への訪問）、学習プログラム作成等の支援 

統合後

こうち山の日推進事業費補助金	
内容	<ul style="list-style-type: none"> 普及啓発 植樹活動 「緑の少年団」活動支援 
補助対象	市町村、教育委員会、県内に事務所を置く法人、任意団体
	こうち山の日ボランティアネットワーク加盟団体

山の学習支援事業費補助金	
内容	<ul style="list-style-type: none"> ①山の学習支援 ②山の一日先生派遣 ③宿泊型学習支援(学校行事) ④宿泊型学習支援(学校行事以外) ⑤宿泊型学習利用促進 
補助対象	①, ③, ⑤小・中・高等学校など
	②市町村・法人若しくは任意団体、個人など ④市町村、NPO、社会福祉法人、青少年教育団体など

内容	森林保全ボランティア活動の支援 	森林保全ボランティア活動の広報 ・ボランティア団体のネットワーク強化
補助対象	こうち山の日ボランティアネットワーク加盟団体	高知県森と緑の会 

内容	<ul style="list-style-type: none"> ・山の学習支援事業活用校掘り起こし ・学習プログラム作成等の支援
補助対象	高知県森と緑の会 

現在の森林環境税の課税期間が令和9年度で満了することから、課税期間の延長の可否や、延長となった場合の用途等について検討が必要となる。その際の判断材料とするため、座談会の開催等により県民からの意見を聞く取組を実施する。

R5～R7の取り組み状況

森林環境税の認知度向上及び県民意見の聴取のため、林業事務所単位で年2地域ずつ、計6地域で座談会を開催

R5:安芸地域、幡多地域（2回開催 76名参加 一般参加者を公募）

R6:嶺北地域、中央西地域（4回開催 65名参加 高校生、集落活動センター関係者、地域おこし協力隊などを対象）

R7:中央東地域、須崎地域（4回開催予定 高校生、地域のボランティア団体等を対象）

座談会の開催と併せて、森林環境税の広報を実施



令和8年度事業

①座談会（拡充）

●趣旨・概要

森林環境税を活用した取組などを説明し、参加者に理解を深めていただくとともに、税の延長やその用途等について意見を聞くため開催
県内6地域（林業事務所単位）で開催し、幅広い意見を聴取

●参加者（1会場あたり：30名）

地域の森林保全ボランティア団体、森林組合、林業事業者、
地域おこしのキーマン等（地域おこし協力隊など）、学校関係者 等
（広報により参加者を一般公募+個別に参加依頼）

●当日プログラム（案）

- ・ 第5期森林環境税の取組状況・成果
- ・ 県民代表（税活用団体等）の取組発表
- ・ 参加者間による意見交換

②企業アンケート（新規）

●趣旨・概要

県内の2,000法人を対象に、税の延長やその現状と延長後の望ましい用途、森林環境譲与税とのすみ分けなどについてアンケート調査を実施
7月下旬頃発送→8月末回答〆切（県民世論調査と同時期）

③森林環境税の広報（継続）

●趣旨・概要

SNS、Youtubeなどのデジタル広告や新聞広告などを通じた広報を実施し、森林環境税の認知度向上につなげる



①、②及び県民世論調査（広報広聴課で実施）の結果を森林環境保全基金運営委員会に報告し、令和8年度～令和9年度にかけて次期森林環境税のあり方について議論



第78回全国植樹祭に向けた取組の推進

1. 事業概要

令和10年度の全国植樹祭の開催に向けて、県実行委員会や専門委員会等の開催、会場整備の準備、機運醸成に向けた県民への普及活動などの取組を推進する。

2. 令和8年度の取組

1 大会成功に向けた計画の着実な策定

- 開催理念を体現するプログラムの策定を通して、参加者に森林の重要性や木材の循環利用の意義を伝える場となるよう、着実に基本計画の策定を進める。
- 両陛下をお迎えするのにふさわしい、安全で円滑な式典を確保するため、万全の準備を行う。

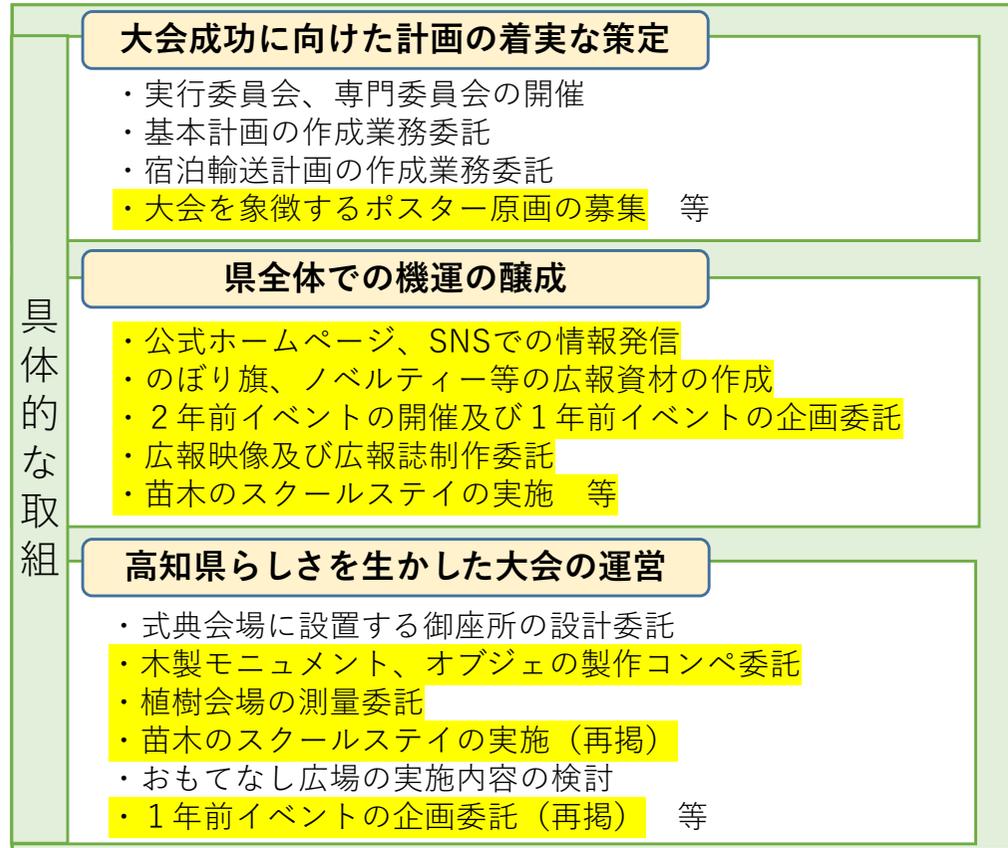
2 県全体での機運の醸成

- 県民の全国植樹祭への関心を高め、森林保全や木材の循環利用について考える契機となるよう、積極的に取組を展開する。
- 幅広く、より多くの県民に、植樹祭について知ってもらい、県全体での開催機運を醸成することで、大会開催のための基盤を築く。

3 高知県らしさを生かした大会の運営

- 豊かな森林資源を活かした会場の設営・運営を行い、森林・林業の魅力や温かみを感じられる空間・時間を創出する。
- 高知県の豊かな自然や、食・文化等の魅力を全国に発信し、参加者をおもてなしの心でお迎えする場としていく。

※黄色マーカーが森林環境税を充当する取組



全国植樹祭の成功・行幸啓の円滑な実施・県内全域への緑化運動の波及！
 ～森林の重要性を再認識し、持続可能な森林そして未来を次世代につなぐ～

令和8年度主なスケジュール

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	専門委①	専門委②,③	実行委① 基本計(中間案)		専門委④ 2年前イベント	専門委⑤	専門委⑥,⑦ 専門委		実行委② 基本計画策定		専門委⑧,⑨
広報・PR活動		●苗木のスクールステイ		●広報映像及び広報誌制作等							
会場整備の検討・設計						施工・運営に向けた準備 (R9.4～発注)					

新規狩猟者ステップアップ事業費補助金

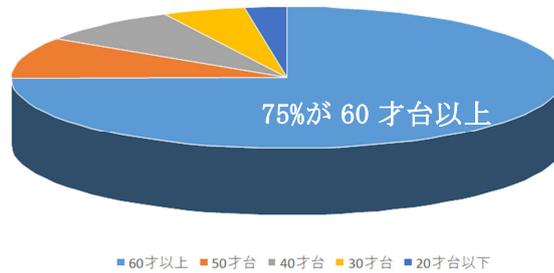
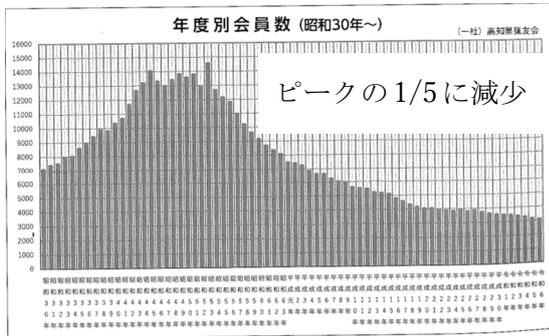
1 概要（目的）

県内の鳥獣による農林水産業の被害額は、ピーク時の平成24年度の約3割まで減少していたものの、近年増加傾向に転じており、令和6年度の被害額は約1億8,700万円と、前年度から約5千万円増加している。

令和9年度目標の9,000万円まで被害を抑えるには、防護柵による守りだけでなく、捕獲を進める攻めの対策が必要である。高齢化に伴い減少が続いている狩猟者であるが、毎年一定数の免許取得者も存在する。そこで、新たに免許を取得した新規狩猟者に対して市町村が貸与するくくりわなの購入経費を補助することで、狩猟意欲を高め被害軽減に資する。

2 狩猟者の推移

狩猟者の数は、減少傾向を続けており、年齢構成も著しく高齢化を示している。シカの捕獲を進めて行くためには、新規に免許を取った方に積極的に捕獲従事者になってもらう必要がある。



3 事業内容

免許を取得して3年目以内の新規狩猟者に対し市町村が貸与するくくりわなの購入経費を、県から市町村に補助する。狩猟登録したことのある人も含め、くくりわなを貸与することで、狩猟への意欲向上つなげる。

		R6	R5	R4	合計	(参考)	
1	狩猟免許合格者数 (わな)	258 人	217 人	233 人	708 人	R3 免許取得者 : 223 人	
2	1 のうち狩猟者登録数 (登録率)	R6 年度	113 人 (44%)	105 人 (48%)	101 人 (43%)	319 人 (45%)	→ 登録者数の推移 R3:136 人 R4:115 人(▲15%) R5:103 人(▲10%) R6:94 人(▲10%)
		R7 年度	96 人	94 人	90 人	280 人	
		見込み	(▲15%)	(▲10%)	(▲10%)	(▲12%)	
	当 事 業 に よる目標				<u>354 人</u>		

4 市町村要望量

規模：308 人、2,877 基 (21 市町村)

5 期待される効果

○過去3年の狩猟免許取得者のうち、狩猟登録をする数は、例年どおりであれば、280人程度が想定される。当事業では、対象者に広く声をかけることで、免許所持者の1/2である354人(286人+α)の狩猟登録を目標とし、担い手の確保に繋げてく。

※狩猟登録者の目標値：令和9年度で4,300人を維持 (R6実績4,055人 ▲245人)